









認知症の症状とケアの流れ

認知症は少しずつ進行し、症状が変化していき

	正常	軽度認知障害 (MCI)	初期 (軽度) 【もの忘れが気になったり、新しいことが覚えられない】	
		もの忘れは多いが自立して生活できる	認知症の疑い	認知症を有するが日常生活は自立
本人 	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症予防をしましょう <p>【認知症予防の3つのポイント】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① バランスの良い食生活を心がけましょう  ② 運動習慣を身につけましょう  ③ 他者との交流を持ちましょう  	 <ul style="list-style-type: none"> ● もの忘れの自覚がある ● 「あれ」「それ」「あの人」等という代名詞が多くなる ● 何かヒントがあれば思い出せる ● 認知症の心配はあるが、日常生活に問題はない 	   <ul style="list-style-type: none"> ● 何度も同じ事を聞く、日付や時間がわからなくなる ● 金銭管理ができなくなる ● 「物を盗まれた」などの訴えが多くなり、トラブルが増える ● 失敗を指摘すると怒りだすことがある ● 忘れることは多いが日常生活はほぼ自立 	<p>＜本人の気持ち＞ もの忘れによる失敗や今までできてきたことがうまくいかない。悲しいし、不安。イライラする。</p>
家族 	   <ul style="list-style-type: none"> ● 認知症を身近な病気として関心を持ちましょう ● 地域の行事やボランティア活動などの社会参加を働きかけましょう ● 趣味やレクリエーションを楽しむように働きかけましょう ● 家庭内でも役割を持ち、維持できるようにしましょう ● 「おかしい」「いつもと違う」と思ったときは、早めにかかりつけ医や地域包括支援センターに相談しましょう 		   <ul style="list-style-type: none"> ● 相談窓口を見つけ、接し方や介護、医療について学びましょう ● 本人の役割をすべてとりあげず、本人が失敗しない環境づくりに配慮しましょう ● 可能であれば本人も交えて、今後について家族間で話し合っておきましょう。 ● 民生委員や地域の知人や友人などにも理解を求め、積極的に見守ってくれる周囲の人を増やしましょう ● 悪徳商法などの被害から守りましょう 	
医療	かかりつけ医を持ちましょう 		かかりつけ医、認知症サポート医、	
地域交流・介護予防等 	<p>【健康診断を受けましょう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特定健診 ● すこやか検診 ● 総合健康診査 ● ぎふさわやか口腔検診 など <p></p> <p>● 介護予防講座 (認知症、運動、口腔ケア、栄養)</p> <p>● 認知症サポーター養成講座</p> <p>● ふれあいいきいきサロン など</p> <p> </p>	<p>【高齢者福祉サービス・介護保険サービスなどを利用しましょう】</p> <p>介護保険の認定申請、サービス利用については、高齢介護課・地域包括支援センター・ケアマネジャーに相談しましょう </p> <p>【地域でのサービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 配食サービス ● 日常生活自立支援事業 ● 成年後見制度 ● 徘徊高齢者等SOS見守りネットワーク <p>【家族への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 介護教室 ● 介護者サロン ● 認知症の人と家族の会 		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症カフェ  (認知症の人やその家族、地域の人、認知症に関心のある人、専門職などさまざまな人が気軽に集まり、交流できる場です) 			

ます。家族や周囲が認知症を理解し、進行に合わせて対応していくことが大切です。

認知症

中期（中等度）【新しいことだけでなく、覚えていたことも忘れる】

後期（重度）【言葉によるコミュニケーションが難しくなる】

誰かの見守りがあれば日常生活は自立

日常生活に手助け・介護が必要

常に介護が必要



- 料理や買い物などの家事ができなくなる
- 着替えやトイレがうまくできなくなる
- 知っている場所で迷子になる
- 季節に合った服が選べなくなる
- すぐ興奮する

＜本人の気持ち＞
心配なことやうまくいかないことが増え、不安。私の話をゆっくり聞いてほしい。



- 着替え、入浴、食事や排泄の手順などがわからなくなり、介護が必要になる。
- 家族の顔や名前がわからなくなる。
- 歩行障害や嚥下障害などがみられるようになる
- 表情が乏しく、意思疎通が難しくなる
- ほぼ寝たきりの状態となる

＜本人の気持ち＞
自分らしさを尊重してほしい。



- 介護保険サービスを利用したり、家族の会などの集いの場所を活用しましょう
- 介護者自身の健康管理を行いましょう
- 今後の生活設計についての備えをしておきましょう（介護、金銭管理、財産等）
- 認知症が進行したときのことを考え、終末期の栄養補給や延命治療、医療をどのように行うかなど、看取りの方法について本人の視点にたって家族で相談しておきましょう
- 介護の負担が増えるため、困ったことがあったら抱え込まず、早めにケアマネジャーや地域包括支援センターに相談しましょう



- 日常生活でできないこと（食事、排泄、清潔）が増え、合併症を起こしやすくなることを理解しましょう
- 介護する家族の休息も大切にしましょう

認知症疾患医療センター（大垣病院内）等に相談しましょう



介護保険サービス

【自宅でのサービス】

- 訪問看護
- 訪問リハビリ
- 訪問介護（ヘルパー）
- 短期入所（ショートステイ）
- 住宅改修
- 福祉用具の貸与、購入



【通いでサービス】

- 通所介護（デイサービス）
- 通所リハビリテーション（デイケア）
- 小規模多機能型居宅介護



【施設等】

- 特別養護老人ホーム
- 老人保健施設
- 有料老人ホーム
- 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

